

ポータルサイト

SharePoint® Server2007

第一三共株式会社 様

経営統合のシナジーを最大化するグループポータルを Microsoft® Office SharePoint® Server2007で構築

導入の背景

経営統合によって生まれた第一三共グループの経営理念や方針、ビジョンをグループ全社員に向けて発信するEIPが必要とされた

各社はそれぞれポータルをもっていたが、視認性が悪い、長期間情報が掲載されたままなどの問題点があった

選定理由

Active DirectoryやExchange Serverなどの『親和性』の高さ
WordやExcelなどに慣れているユーザーが違和感なく使える操作性

日本ユニシスの数多いポータル導入の実績

SPS2003、MOSS2007に対応できる製品知識と提案力

MOSS2007の 版を共同検証するなど日本ユニシスとマイクロソフトとのアライアンスの強さ

導入の効果

経営統合後の組織融合、方針・ビジョンの共有に役立った

リアルタイムで個人向けに有用な情報が取得できると好評

プロジェクト単位でも利用され、双方向のコミュニケーションを実現

使い込むほどに利便性が実感できる

今後の展望

2008年4月からはグローバル展開を予定

事例のポイント

マイクロソフト製品との親和性を重視

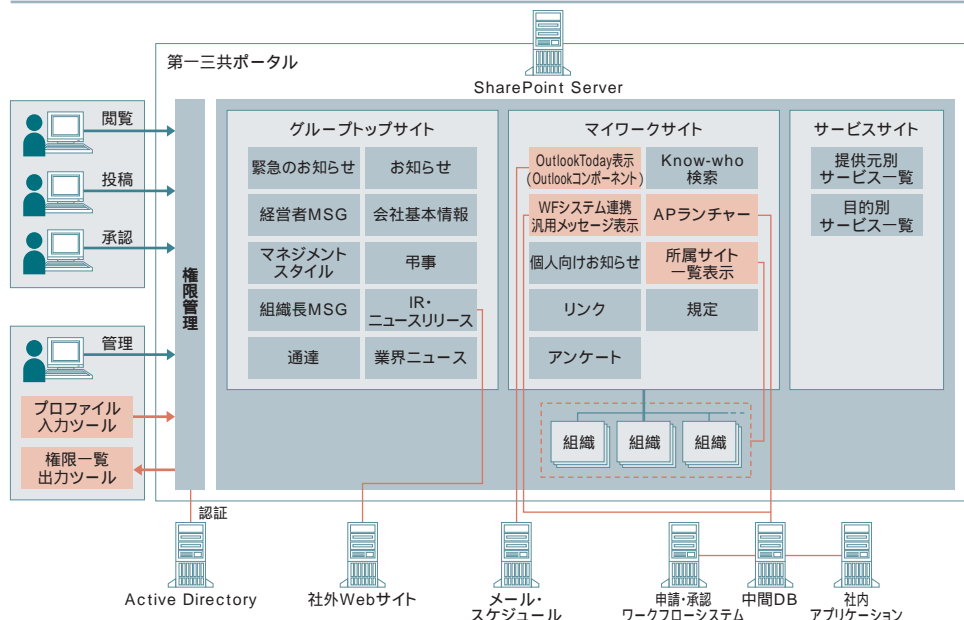
SharePoint® Portal Server2003、次期2007の両バージョンで検証を実施

マイクロソフトとの早期からの共同検証などが安心感に

140サイトにも及ぶ大規模展開、権限設定の複雑な設計にも対応

.NETによる高い開発力がアドバンテージに

システム概要図



システムの概要

システム名称: DS-Portal

システム概要: 経営層から企業理念や経営方針を伝えるとともに、従業員の情報共有やコラボレーションを促進するEIPをMicrosoft® Office SharePoint® Server2007で構築。ユーザー数1万人、サイト数140という大規模構成

開発期間: 約7カ月

システムユーザー数:
国内全グループ会社(1万人規模)

USER PROFILE

設立: 2005年9月28日

資本金: 500億円

従業員数: 15,655名
(連結: 2007年9月末現在)

本社所在地: 東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号

事業内容: 医療用医薬品の研究開発、製造、販売など



第一三共株式会社 様

導入の背景

統合シナジーの最大化に向けて、EIPの整備を検討

“革新的医薬品” 今までその領域になかった薬剤(ファーストインクラス)や、すでにその領域にある薬剤を効果と安全性で超える薬剤(ベストインクラス)を創出・提供し、人々の健康で豊かな生活に貢献する、という企業理念のもと、2007年4月に新しいスタートを切った第一三共グループ様。2015年に「グローバル創薬型企業」を実現するというビジョンに向かって、躍進を続けている。

第一三共株式会社様は、2005年9月に三共株式会社と第一製薬株式会社の持ち株会社として発足し、2007年4月に完全統合。その中心的な存在を担った「経営統合プロジェクト」が打ち出したのが、グループの理念や経営方針をグループの全社員に発信し、また業務効率を向上させるグループポータル(EIP: Enterprise Information Portal)の構築だった。

「とにかく“新生・第一三共グループ”に相応しい仕組みをつくらうと考えました」とIT企画部長 梅澤仁氏は語るように、同グループでは方針やビジョンを一人ひとりに浸透させていくEIPを経営統合の成否を握る重要なツールとして位置づけていた。



選定理由

マイクロソフト製品との親和性が大きなポイント、日本ユニシスの多くのポータル構築実績を評価

第一三共グループ様が選定したのは、マイクロソフトの製品、SharePoint® Portal Server(以下、SPS)だった。その理由は同じマイクロソフト製品であるActive DirectoryやExchange Serverなどとの親和性の高さにあった。そして、同プロジェクトはSPSの導入サポートに関する提案をベンダー2社に依頼。その結果、RFPをふまえた提案内容と、さまざまな業界で数多くのポータル開発を手がけてきた実績などが評価され、日本ユニシスがEIPシステムの構築を請け負うこととなった。

この提案にあたって、日本ユニシスがもっとも考慮したのが「製品のバージョン」だった。当時SPS2003の次期バージョン製品であるMicrosoft® Office SharePoint® Server2007(MOSS2007)のリリースが間近に迫っていたため、日本ユニシスは次期バージョンであるMOSS2007で要件定義をしつつ、SPS2003に対しても共通の要件定義を行い、両者のプロトタイプを組み上げることで、それぞれの機能を評価・比較(要求整理フェーズ)することとした。



「日本ユニシスはマイクロソフトと共同で早くからMOSS2007の検証に取り組んでいましたし、SPS2003とMOSS2007の両方について要求機能の検証を行うなどリスクヘッジの方策も提案してくれました。こうした姿勢に大きな信頼感をもちました」とIT企画部 推進グループ 課長代理 泉貴浩氏は振り返る。

導入の効果

経営統合の融合促進に大きく役立つ

2007年4月、第一三共グループの新たな門出とともにグループ内に公開されたポータルは、「グループとしての方針・ビジョンの共有に大いに役立っている」(泉氏)という。

「現在も、統合に関するメッセージはなくなったものの、経営方針やマネジメントの方向性などが継続的に発信され、社員にとっても重要な行動指針となっています」(泉氏)

またIT企画部 推進グループ 岩井恵美氏は、「稼働から5カ月後にアンケートを実施したところ、新しいポータルを使いこなせていないという意見もありましたが、組織、個人ごとのお知らせ 情報 がリアルタイムで取得できるなど『知れば知るほど、便利さが実感できるポータル』という嬉しい感想ももらいました」と話す。



今後の展望

2008年4月からはグローバル展開を予定

MOSS2007を用いたEIPは、現在、国内事業会社のみで運用されているが、第一三共グループ様では、2008年4月から全世界のグループ会社に展開していくことを予定している。

日本ユニシス株式会社

本社 東京都江東区豊洲1-1-1
電話 03-5546-4111(大代表)
URL <http://www.unisys.co.jp/>
E-mail dotnet-box@unisys.co.jp

事例インタビューの全文はこちら

URL <http://www.unisys.co.jp/dotnet/casestudy.html>